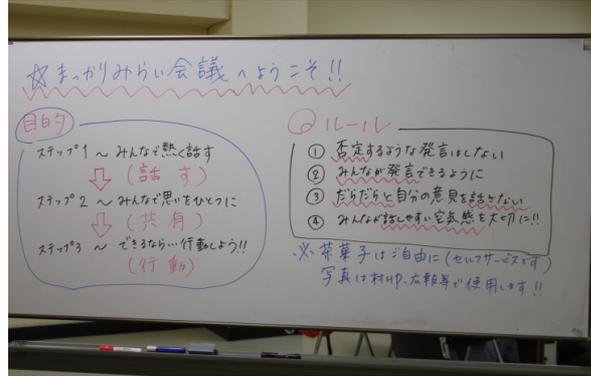


第5回目まっかりみらい会議結果

日時：平成31年2月26日（火）午後6時30分～8時20分 場所：役場2階会議室

参加：23名（3グループに分かれグループワーク実施）

○挨拶（総務企画課酒井参事）



○事業説明

目的～ステップ1（話す）⇒ステップ2（共有）⇒ステップ3（行動）

ルール説明～①発言を否定しない、②みんなが発言できるように、③だらだらと話さない、

④はなしやすい空気感を大切に

グループ分け（くじ引きでA～Cグループ）

○今年度のふりかえり

みらい会議が目指すところ

総合戦略がH31年度に、
総合計画がH32年度に計画期間が終了

その後の未来を描く次のステップとして「まずは**本気で話し合うこと**」を重点に置き開催します。真狩に住んでいる人、働いている人、まちづくり活動をしている人、真狩には住んでいないけど興味のある人が対話を通じ、お互いの考えを尊重しあい、みんなが笑顔になる真狩の未来や**地域の課題を共有**することが目的です。また、住民の自主的・主体的なまちづくりへの参画の更なる推進や参加した人同士がつながり、**新しい活動がどんどん生まれること**も期待し開催します。みんなが笑顔になり、自慢できる村の未来を語り合いましょう！

第1回(H30.7.31) 今後話したいテーマについて

- 高齢化**
 - ・高齢者が元気で生きるためには？
 - ・退職後、集う場所
- 観光・産業振興**
 - ・真狩をどうPRしていくか？
 - ・観光スポットの充実
 - ・道の駅の活性化
 - ・都市民との交流(民泊含)
 - ・農業体験
 - ・観光客が来るために
 - ・特産品開発
 - ・官民農学の地域連携
- 子育て支援**
 - ・子育て支援対策の充実
 - ・子どもたちの遊び場
- 教育**
 - ・芸術文化活動
 - ・ふるさと教育
- 生活**
 - ・交通アクセス
 - ・移住定住策
 - ・住宅問題



第2回(H30.9.26) 観光振興策について

●観光の現状について

- ・真狩～H19年度をピークに減少傾向
※道の駅オープンから各施設運動し減少
- ・観光まち度ランキング12位(真狩)
⇒意外と観光が重要産業
- ・北海道の観光客は右肩上がり(東日本震災以降)
- ・特にインパウンドの増加(H29～約300万人)

●各グループで考えた観光振興アイデア

- ・自作ソリレース大会
- ・食う・寝る・遊ぶ真狩
(各種テーマをクリアしていく宝探し)
- ・神グループが集うスプリングフェスト
- ・コワーキングスペース付宿泊施設



第2回キーワード

- ①みんなが連携イベントを実施
⇒ **みんながアイデアを出す場・支援する体制づくり**
- ②SNSの活用など情報発信の重要性
⇒ **インフルエンサー活用・情報発信力強化を追求**
- ③真狩の自然を楽しむ(雪・ホテル・桜並木・・・)
⇒ **体験を提供できる受け皿づくり(商売として)**
- ④真狩の食をPR
⇒ **真狩のグルメに焦点を当てた取組み強化**

第3回(H30.11.27) 人口減少と高齢化について

●講話～北海道福心会佐々木施設長

- ・人口減少や高齢化が進む中、
私たちは何をすべきか？
- ・自助、互助、共助、公助について



●各グループで出た主な意見

- ・みんなが集まれる場所
- ・高齢者からの知恵の継承
- ・高齢者の働く場



第3回キーワード

- ①自助・互助・共助・公助の考え方や行動
⇒ みんなが集い・つながる【互助】の強化
- ②いかに【いきがい】として行動できるか？
⇒ 【いきがい・就労】～シニア世代が「働くこと」×「いきがい」
⇒ 人材センターの必要性

第4回(H31.1.30) 移住定住策について

●人口減少になつたら困ること

- ・地域経済衰退、地域コミュニティ、活気、学校、税取減・・・
- ⇒ 移住定住策は必要！

2040年に1,750名？

●地方創生の国・村の状況

- ・出生率～全国1.43、真狩1.31 目標1.8
- ・東京一極集中10万人以上
- ・地方創生の国のスタンス
自助の精神で意欲と熱意がある地域の取組みを支援する
- ・真狩では人口2,000人維持を目標(H32年3月)

●各グループで出た主な意見

- ・住む所と働く場所の情報
- ・移住者へのニーズ調査
- ・思い切った政策が出来るか？
- ・新たな生活スタイル(ノマドライフ)
- ・農業大学校
(地域との関わりが移住につながる)
- ・地域の情報発信
- ・働く女性への支援
(子どもを預けられる場所)
- ・病院など医療機関の充実

第4回キーワード

- ①情報発信力の強化
⇒ 「家」と「仕事」をセットにした情報の提供
⇒ またどのように発信していくか？
- ②移住者のニーズの把握
⇒ 現状把握し効果的な政策を探る
- ③他の自治体との連携強化
⇒ 全国の自治体・近隣自治体と連携
- ④子育て支援は必須
⇒ 結婚から子育て(女性就労)までの支援



○グループワーク「真狩村の強みは何？」

※グループで出た意見

- ・起業のしやすさ～アクセス・立地・自然・多数の移住⇒起業
- ・高校生の力～高校と地域のつながり。高校生カフェの活動
- ・安全、平和、のどか～犯罪が無い。人が優しい。
- ・立地、空港、観光地～スキー場・温泉・農産物アピールできるものがある（あとはアピールの仕方）
- ・自然が豊か、羊蹄山
- ・ロケーション～選べるスキー場・登山・羊蹄山の景色
- ・何も無いこと～不便を楽しむことが出来る
- ・人口が少ないこと～柔軟に団結して様々なことに取り組める
- ・農業力～可能性がある
- ・程よい人口～ひとりひとりに存在感がある
- ・人～面倒見が良い。農産物などいろいろ
- ・農業～地力・土づくり・技術研究・新規作物・ゆり根・自然
- ・羊蹄山～とにかく美しい
- ・野菜～食べることの困らないのはすごい強み
- ・羊蹄山の水～豊富な水・フツ素入っていない・水源を守って欲しい
- ・羊蹄山が大好きだ～真狩の羊蹄山が一番近い・南に位置
- ・農業は大きいぞ～やや冷涼・鉄ミネラル・ゆり根の花とりたい
- ・村なのだ～風景が好き・動かしやすさ・他にはなくてできることがあると思う
- ・細川たかし～細川たかしといえば真狩PRができる
- ・大自然～まだまだ知られていない観光になる自然が残っている
- ・人口が少ないこと～地域住民の顔と顔が見える関係が作れる
- ・農業&農産物～アスパラが美味しい・野菜・ゆりね・高校製菓・三野さん・後継者



- ・立地、自然～リゾート・羊蹄山・空港・災害が少ない・札幌
- ・家族、友人を呼びやすい～普段の生活がゆっくりできる・スキー場や空港が近くになる
- ・何もないところ～モノが多い時代なので、本当に必要なものわかる
- ・農地がたくさんある～食材が新鮮⇒食育等
- ・北海道を満喫できる～山・スキー・農地・食が楽しめる（これぞ北海道を知れる）
- ・コミュニティの強さ～町内会活動や運動会などを見ると密接な関係になっているように見える
- ・景観の良さ～高いビルがない
- ・確かな農産物と農業収入～近隣町村よりも良い土壌で作物が作られる
- ・村民の意識の高さ、つながりのある村～人が参加する
- ・千歳から適度な距離にある自然
- ・近くにリゾート地がある～ニセコ、ルスツ、洞爺湖、小樽が近い
- ・夏にも観光客が来る～夏に涼しい・農産物が美味しい
- ・風景～近隣地域より明るい雰囲気がある・農地が開けてる・羊蹄山
- ・地域性（人と人とのつながり）～ほとんどの人と顔見知りになる可能性⇒横のつながりが強くなり、地域として成長できる・出身が近隣ではない人も受け入れてくれる
- ・水・山⇒豆腐・そば他～羊蹄山が良い形で見える・交差点で写真を撮っている外国人多い・しかし、立ち寄るが泊まる人が少ない
- ・農業～若い人が跡継ぎで頑張ってる・ゆりねや雪下人参等うまく使えるのでは？
- ・人口が少ない～住民同士つながりやすい
- ・自然が身近～精神が開放される
- ・農村～食が身近にあり、食に対する意識が変わる
- ・羊蹄山～自然がきれい
- ・農村～農産物が美味しい
- ・主要道路がない～車の通りがないので安全
- ・羊蹄山～日本百名山であり、登山者があこがれの山
- ・真狩川～オシヨロコマの南限の川
- ・地価が安い～家を建てるのに優位（建物より安価）
- ・羊蹄山の湧水
- ・立地、アクセス～札幌から2時間（ちょうどよいドライブ）、スキーリゾートなど隣接し観光客多い
- ・若い農業者、起業者～農家の平均年齢・変化に対応し行動力あり・起業支援により多くの起業
- ・「村」であること～北海道で15、全国で183の村・村のイメージの良さ

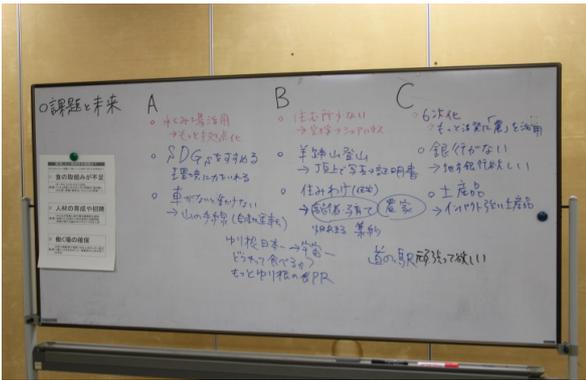
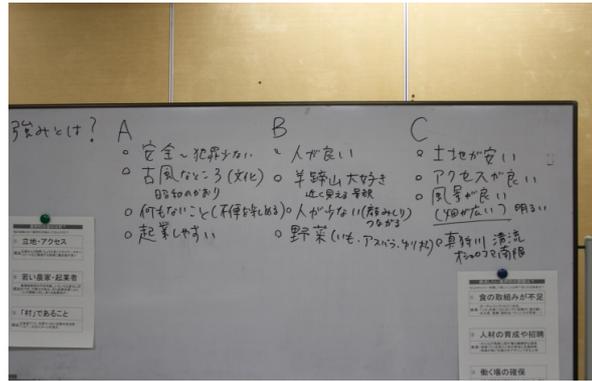


○グループワーク「解消したい真狩村の課題と理想の未来」

- ・地域交通～山麓で協定し地域交通
- ・道の駅魅力UP～ルスツや洞爺湖に行く途中にある場で良い休憩ポイント・何か（名物）を求めて体験
- ・自治体間連携～地域間の魅力UP
- ・SDGs～未来の子どものため（ニセコのように）・地域ベースでの自給自足・景色が大切にしながらの電力確保・水源の確保
- ・コミュニティ（憩い）の場所～何かあったときのQ&A（地域の人）・ゴミの出し方や口座を開く・災害が起きたとき団結力を活かす
- ・各自治体の連携不足（協力体制が弱い）～観光面等
- ・宿泊場が不足
- ・本当にインバウンドを取り込みたいと思ってるのか？～マナー・ごみ・犯罪増える？どんな対策が必要か？
- ・お店など英語や中国語その他の言語への対応
- ・認知されていない～世界中から「真狩行けば北海道を楽しめる」といわれる
- ・お土産になるものをつくる～真狩にしかない手づくり土産

- ・車がないと困る～山手線？
- ・住み分け～高齢者や子育て世帯と農家地域
- ・羊蹄山の山手線～高齢者、観光客が拠点から拠点へ・新幹線
- ・なんとなくどこか他人任せなところ～自分たちで何とかしようと本気でエネルギッシュな村⇒人口減少何のその
- ・羊蹄山登山の山頂写真撮って～役場で証明書発行
- ・副業～村も個人もいきる！
- ・神社桜～植樹する
- ・なんとなくつながっていない感・・・～つながろう・つながっている
- ・もっとできる食～ビートルートラテ飲みたい・エコ大麦ストロー・インスタ映え・倶知安⇒真狩のスイーツ食べたい
- ・おばあ私の暮らし～上と下の循環・働き・知恵・高校生レンタル（樽商）
- ・100年モニュメントのライトアップ～期間を決めてライトアップ
- ・真狩村の情報がない情報発信強化～新篠津わかりやすい・真狩の知名度が上がる⇒訪問客増える
- ・宿泊施設がない
- ・土産に持たせるものが少ない～地元産
- ・知名度と内容のバランスが悪い～真狩といえば・・・インパクトある何か（食・イベント？）
- ・人口の前に来る目的を作る～PR方法を変える
- ・働く場が少ない～外から起業家を取り入れる・いままでと違う働き方をつくりだす
- ・真狩に住みたいのに空き家が少ない～シェアハウス・ノマドワーカー
- ・真狩村らしい物をつくる～お土産目当てに村の足を運んでもらえるようになると良い・限定品
- ・アクセス方法少ない～車をもっていない方の移動が良くなるもの
- ・滞在型観光はできないの？～羊蹄山登山の宿泊拠点をつくろう
- ・ゆりねの食べ方知らないよ～食べ方のPR・メディアに載せる戦略
- ・車が無いときの移動方法、アクセス～高齢社会に対応する自家用車以外の移動方法は必須・乗り合いタクシーや広域コミュニティバス
- ・余った食材の再利用～B級グルメ的なイメージでB級食材サイト（アプリ）で販売
- ・移住家族向けの住宅強化～大きな家に一人暮らししている人と都会からの移住者の家交換
- ・羊蹄山麓の地域の連携
- ・宿泊施設、飲食街の整備～今は通り道、寄り道の場所に・遊ぶ、食べる、飲む、泊まるが車がなくともできるように・キャンプ場利用者がうまく村の経済効果になるように
- ・子育て支援、施設（遊び場・相談・0歳入所・高齢者も集う）～冬はソリなどのコース・母親が社会参加しやすく子育てしやすいソフトとハード面の整備・0～18歳が安心して生活・働き口整備
- ・人材の確保、育成～農業の後継者はしっかりしているが、その他の部分でも若い人が増え、生活しやすいように
- ・農産物の6次産業化を考えて欲しい～真狩ブランドの製品が国内中に広まっている
- ・ハイキングコース、トレッキングコースを作って欲しい
- ・銀行が無いので振込み不便
- ・道路沿いの雑草～真狩をもっと綺麗に（美しい真狩村）
- ・真狩特産の野菜（特にゆりね日本一）をもっと食べ方も含めPR～道の駅の食事、購買、集客が増・駐車場のレイアウトをニセコ道の駅並みにする必要性あり
- ・食の取り組みが不足～オータムフェストに出店・これを食べるために行く道の駅・お土産や銘菓（高校生パティシエが将来働く場）
- ・人材の育成や招聘～みんなが気軽に話す場の継続的な提供・地域づくりを担う人材の育成と支援体制・地域が稼ぐ仕組みをデザインできる人材
- ・働く場の確保～女性や高齢者が相談できる人材センター設立・働くことを生きがいに・事業所の人材不足への対応





今年度のみらい会議は今回で終了です。全5回で延べ114名の方に参加いただきました。真狩村の現状や今後進むべき方向性など共有できたのではないのでしょうか？また、参加したことにより新しくつながりが増えた方もいたのではないのでしょうか？会議終了後に、今後こうやったら面白い！ということで協力したい！など前向きなご意見も頂きました。

「熱く話す」「共有する」「できれば行動しよう」を目的にはじめた【まっかりみらい会議】。いろいろと課題もあると思いますが、今後の地域づくりにプラスになったと確信しています。皆さんの熱い想いやアイデアは今後の真狩村の大きな力になります。来年度も3回程度開催予定です。是非、参加願います。まずは今年度参加いただきました皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。